

## 知佳子 令和8年4月度特別作品

春 知佳子

春が好きです。枯木のように見える木に花が咲くと、まるで夜が明けて朝が来るように、何があっても、自然に身を委ねていけば、時が解決してくれど感じるので。いつも歩く土手にムスカリが咲き、鳥が来る。毎年その録り返りに深い喜びを覚えます。別れの寂しさもある季節ですが、新しい日々を期待し、前向きになれる時でもあります。

春来る車椅子止め川に向く

猫柳に光る雨滴を弾きけり

登るほど広がり見ゆる春の海

梅の花だらうか色付くあの辺り

どこからか梅の香の濃く雨の朝

紅梅の下にて友と話しをり

人声のする方に行く梅見かな

子の列の渡り終へたり春の風

旅人と譲り合ふ道花馬酔木

初花を探し坂道迷うたり

### 《作品鑑賞》

ちどり

私も春が好きです。私の身近な所で家や実家の周りにもあちこちに春を感じます。新しい生命をいとおしく思います。

春来る車椅子止め川に向く

猫柳に光る雨滴を弾きけり

春立つ日、車椅子のお母様か誰かとお出かけされ、二人で川に向き合っておられるのでしよう。雨上り、猫柳に光る雨滴が知佳子さんの指に弾かれて、とてもきれいです。

登るほど広がり見ゆる春の海

どこからか梅の香の濃く雨の朝

小高い丘か山を登れば登るほど、春の海が広がって見えます。四句とも、知佳子さんのそばにいて私も春を楽しんでいます。

初花を探し坂道迷うたり

今度は、初花を探して道を迷っています。迷いもまた、心地いいです。